

道徳科

「メダカの気持ち」

しゅうさんのクラスでは、メダカを飼っています。しゅうさんは、生き物が大好きです。休み時間になると、かならず水そうのまわりに行き、メダカがおよくようすをながめていました。

ある日の朝の会で、先生が言いました。

「これからは、みんなにすこしずつメダカのお世話をしてもらいます。」「やったね。」
となりのせきの友だちが言いました。しゅうさんも、とてもうれしくなりました。先生が、メダカのお世わのしかたをおしえてくれました。

- ひる休みに2人ずつでお世わをする。
- えさはすこしだけあげる。
- 水をかえる。
- 水そうをそうじする。

「メダカがきもちよくせいかつできるように、たべものをあげたり、おうちをきれいにしてあげてくださいね。」

「はい。」しゅうさんは大きくへんじをしました。

きょうは、しゅうさんがおせわをする日です。「きょうはメダカのおせわができるぞ。」いつもよりもドキドキ、ワクワクしながら学校に行きました。

ひる休みになりました。しゅうさんのペアは、たかしさんです。さっそく、おせわをしようとした時、たかしさんが言いました。

「おれ、はやく遊びに行きたいから、てきとうにやろうぜ。」しゅうさんは、「てきとうにしちゃだめだよ、メダカがかわいそうだよ。」と言いました。

「だいじょうぶだって。ほら、水そうもあんまりよこれていないし。一回くらいえさをやらなくたってだいじょうぶだよ。じゃ、おれ行ってくるわ。」と言ってたかしさんは何もせずに遊びに行っていました。

水そうは、おもくて一人ではこべません。その日、けっきよくしゅうさんは、えさをやることしかできませんでした。

「これじゃあ、メダカがかわいそうだよ。」しゅうさんは、水そうの中のメダカを見つめながら思いました。今、メダカはどんなことを思っているのだろう。しゅうさんは、そうじをしていない水そうの中でおよぐメダカをながめながら、メダカの気持ちを考えていました。

